

こんにちは
健保組合です！

湾岸高速運輸株式会社の巻

(君津市)



九月六日、秋篠宮ご夫妻に男子が誕生されました。心からお祝い申し上げます。

四一年ぶりの皇位継承資格者だそうです。次世代における皇位継承者がいなかったことから、昨今、



石川夕伎夫常務取締役

山口武彦取締役

皇室典範を巡ってさまざまな議論がなされていますが、親王誕生を契機に拙速な結論は避け、伝統や文化を重んじる日本国に相応しい答えを導き出していきたいものです。

何かと暗い話題が多いなか、悠仁親王のご誕生で日本中がお祝いムードに包まれました。小さな命ですが、その重さは計り知れませんが、皇室に限らず、子どもは社会の宝です。宝物を皆で大事に育てる環境の醸成が、ますます重要ではないでしょうか。

★ ★ ★
節目となる事業所訪問の第五〇回目として、九月七日にお邪魔したのは、君津市に所在する湾岸高速運輸株式会社(西郷隆好社長)で

した。

私たちが訪ねた君津市は房総半島のほぼ中央部に位置し、市の北西部には臨海工業地帯、北部台地には「かずさアカデミアパーク」、東部は清澄山系、南部は鹿野山系などがあり、中央部を小糸川・小櫃川が流れ、その市域は県下第二位の面積を誇っています。平成十五年四月には館山道が君津インターチェンジまで開通となり、交通網も整備されつつあります。

豊かな自然が財産であることから、基本理念に「自然と人の共生」を掲げ、「自然と個性の豊かな活力に満ちた都市」をめざしている街です。

今日の目的地は、前述した館山道君津ICからほど近いところにあります。四、〇〇坪を超える広大な敷地内に車を止め、私たちは社屋に足を運びました。

「こんにちは健保組合です！」とあいさつすると、山口武彦取締役が「いらっしやいませ」と応接室に案内くださいました。

執務中だった石川夕伎夫常務取締役が「おはようございます」と私

とやさしくドライバーを見守っているかに見えました。

同社の安全への取り組みが奏功し、数ある同業者のなかにあっても、取引先での安全会議では常に上位にランクされているそうです。まさに、「安心」が企業のセールスポイントとして大きなウエイトを占める時代になりました。

ゴルフ、野菜、麦飯と「食事と運動」に気を配り、健全経営へ

企業も健全経営でなければなりません。が、「何かご自身の健康法は？」と石川氏にお聞きすると、「食事と運動」とおっしゃいました。趣味のゴルフで体を動かし、野菜を十分とり、麦飯を食されるそう。健康にはかなり気をつけておられるようでした。

企業経営においては、ストレスがつきものですが、独自の解消法をもっていれば鬼に金棒です。オンとオフ、バランスをとることが平常心を保つ秘訣ですね。

他人は、悪い生活習慣を治してくれません。自ら気づくことが大事です。これからも自身へのお気

広大な敷地内にある湾岸高速運輸の社屋



たちを笑顔で迎え入れてくださり、石川氏と山口氏に石井康雄顧問が加わり、貴重な時間をちょうだいして取材が始まりました。

コンプライアンス精神のもと、社員の安全教育に力を注ぐ

話題は社史から始まりました。湾岸高速運輸は平成九年二月、君津市中島に産声をあげました。

設立のいきさつは、同社の親会社である安房運輸株式会社(館山市)の木更津営業所が年々手狭となり、第二営業所の進出を求めた先がこの地であり、その後、取引先の業務形態に合わせ、人事や労

づかいを続けていたのだと思います。

取材の最後に、「組合への要望」をお聞きすると、「福利厚生充実をお願したい」とのこと。「ゴルフ大会の開催」「健康機器の斡旋」「各種助成事業の拡大」など、いろいろなアイデアをちようだいしました。今後の事業展開につなげていきたいと思えます。

談笑に終始した今日の取材も、あつという間に予定の時間が経過して終えることになりました。石川氏をはじめ、湾岸高速運輸の皆さん、ご協力ありがとうございました。

★ ★ ★
頬を打つ風にも幾分涼しさが感じられるようになりました。暑かった夏の日も過去のことのように思われます。

先人は「秋の日はつるべ落とし」と、今ごろの夕刻を見事に表現したもので、すっかり夕暮れが早くなりました。

秋の気配が身をもって感じられる今日このごろです。秋の夜長に鳴く虫の名前、知っていますか？



今日も「安全」を第一に

務管理をきめ細かに行うため、同社を立ち上げられたそうです。私たちが驚いた同社の広大な敷地は、業務拡張を図るつど、必要に応じて取得されたそうで、厳しい経済環境下にあつては、中長期的視野に立った理想的な設備投資をされてこられたと感心させられました。

「社員に責任をもたせ、モチベーションを高めながら人材を育て、引き継ぐことが自分に与えられた使命」と石川氏は熱く語られました。そして、「経営者の新陳代謝がないと社業は停滞してしまう。先

輩から引き継いだ知識や経験と新しい考え方を融合させて次世代をつくっていくことが理想的」と加えられました。

また氏は、「オーナーから預かった企業という特異な運営形態上、苦境に強い精神力と先見の明をもった人づくりが、現経営者の命題だ」とおっしゃいました。

「ここ数年、業界はどのように変わりましたか？」とお尋ねすると、「なんでもあり」は昔のこと、いまやコンプライアンス(法令順守)精神がないと企業として成り立たない」とキツパリ。

社会に迷惑をかけるようなことをしているはこの業界がいつまでも認められず、襟を正して、自らを厳しく律することが必要不可欠ということでした。その実践行動として同社は、特に社員の安全教育に力を注がれています。

安全点検用の専用ブースを設け、出庫前には必ず立ち寄ることを義務づけているそうです。居眠り運転防止を啓発する大きなボードがそこには掲げられていましたが、「事故なく無事に帰ってきてね！」